

文教委員会報告資料

令和5年11月15日

報告事項件名	頁
(教育指導部)	
(1) 令和5年度足立区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について …	2
(2) 文部科学省リーディングDXスクール事業について……………	5
(3) 実用英語技能検定受験支援事業における第1回受験結果及び第2回申込状況について …	7
(4) 令和5年度「足立区学力定着に関する総合調査」の調査結果(学習意識調査部分)について…	8
(5) 台風・大雨・大雪時等におけるオンライン授業の実施について……………	18
(6) 令和5年度「東京都児童・生徒体力・運動能力等調査」の結果について……	24
(7) 不登校未然防止事業の進捗状況について……………	27
(学校運営部)	
(8) 令和6年度用務業務委託のプロポーザル方式から競争入札への移行について…	29
(9) 足立区立校外施設の賄料(食事料)の変更について……………	30

(教 育 委 員 会)

文教委員会報告資料

令和5年11月15日

件名	令和5年度足立区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
所管部課名	教育指導部教育政策課
内容	<p>令和5年度足立区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）について、別添資料1のとおり報告書（案）がまとまったので、報告する。</p> <p>なお、昨年度は施策を絞り込み評価を行ったが、現計画（令和2～6年度）の改訂の検討素材とすべく今年度は全施策を対象に実施した。</p> <p>1 点検・評価の概要</p> <p>(1) 評価対象 足立区教育振興ビジョンの以下の施策に掲げる成果指標及び活動指標の令和4年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 施策1：児童・生徒の心身の健全な発達の支援 ② 施策2：確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み ③ 施策3：不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 ④ 施策4：快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実 ⑤ 施策5：子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援 <p>(2) 実施時期：令和5年4月から8月にかけて評価を実施</p> <p>(3) 評価方法</p> <p>ア 自己評価 各所管は、戦略毎に成果指標及び活動指標の達成状況や課題の分析、今後の方向性について自己評価を行った。</p> <p>イ 外部評価 点検・評価委員は、各所管による自己評価やヒアリングを通して、戦略毎に、観点別評価（4つの観点について7段階）及びこれに基づく全体評価（AからEまでの7段階）を行った。</p> <p>(4) 令和5年度点検・評価委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学齢期 石塚 等（横浜国立大学 教職大学院 教授） ② 就学前 齊藤 多江子 （日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授） ③ 不登校、発達支援等 米川 和雄 （名古屋市立大学 大学院 准教授） <p>2 計画の進捗状況</p> <p>(1) 「目標通りできた」（達成度100%以上）となった成果指標及び活動指標は約4割だったが、「<u>おおむね目標通りできた</u>」（90%以上）以上では、<u>成果指標は8割弱、活動指標は7割弱の達成率</u>となった。</p> <p>(2) <u>基準年度である平成30年度の実績値と比較した際、これを上回った成果指標は約6割にとどまった。</u>前年度比で見ると特に活動指標は8割弱が上回っており、新型コロナウイルス感染症からは回復基調にあるものの、<u>平成30年度比では、主に児童・生徒の意識調査を活用した指標を中心に実績値の落ち込み</u>が見られ、依然とし</p>

て影響は大きいと考えられる。

3 点検・評価委員による令和5年度評価概要

- (1) 全体評価は、3戦略が7段階中上から2番目のB⁺評価となった。
- (2) 今回の評価でもC⁻評価以下の評価はなかった。
- (3) 観点1「助言や今後の期待・要望への反映率」は7点中平均5（昨年度4.8）であった。
- (4) 観点2「目標・成果の達成状況」は評価4（課題が見られる）以下となった戦略は3割と減少し、初めて平均5を超えた。
- (5) 観点3「各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか」は平均5.2と昨年並みであったが、観点4「児童・生徒にとって真に効果的か」は平均4.8と、一部観点2の実績が芳しくなかった戦略が影響し、昨年の5.2を下回った。

観点：7から1までの7段階評価

表2 令和5年度観点別評価及び全体評価一覧 全体：AからEまでの7段階評価

施策名・戦略名	観点1 反映率	観点2 達成状況	観点3 方向性	観点4 効果的	全体	全体 (前年)
【施策1】 児童・生徒の心身の健全な発達の支援						
戦略1 豊かな心の育成	5 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁴⁾	6 ⁽⁶⁾	6 ⁽⁵⁾	B	B
戦略2 健やかな体の育成	6 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁴⁾	5 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁴⁾	B	C
【施策2】 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み						
戦略1 教員の授業力向上	-(-)	4(-)	5(-)	4(-)	C	-
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実	-(-)	4(-)	5(-)	4(-)	C	-
戦略3 就学前教育の推進	-(-)	5(-)	5(-)	4(-)	B	-
【施策3】 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実						
戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談	-(-)	6(-)	5(-)	6(-)	B ⁺	-
戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援	-(-)	5(-)	4(-)	5(-)	B	-
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進	-(-)	6(-)	4(-)	4(-)	B	-
戦略4 いじめの早期発見・早期対応	-(-)	6(-)	6(-)	4(-)	B ⁺	-
【施策4】 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実						
戦略1 安全で環境に優しい施設整備	5 ⁽⁵⁾	6 ⁽⁶⁾	6 ⁽⁵⁾	6 ⁽⁶⁾	B ⁺	B
戦略2 適正規模・適正配置	5 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁴⁾	6 ⁽⁶⁾	5 ⁽⁵⁾	B	B
戦略3 学校運営支援	4 ⁽⁴⁾	4 ⁽⁴⁾	5 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁵⁾	C	C
戦略4 就学環境の整備	5 ⁽⁵⁾	6 ⁽⁶⁾	6 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁵⁾	B	B
【施策5】 子ども・若者が社会と関わる力を育成するための成長支援						
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実	-(-)	5(-)	5(-)	5(-)	B	-
戦略2 家庭教育支援の充実	-(-)	5(-)	5(-)	5(-)	B	-
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援	-(-)	4(-)	5(-)	4(-)	C	-
平均	5.0 ^(4.8)	5.1 ^(4.7)	5.2 ^(5.3)	4.8 ^(5.2)		

※ ()内は昨年度の数値(施策1及び4以外の3施策は昨年度評価対象外となっており評価実績はなく、「-」とした。また、これら3施策は前年度に提言を受けていな

いため、昨年度の評価を踏まえて点数付けを行う観点1についても「-」とした。

表3 令和5年度全体評価集計

評点	全体評価(戦略数)	割合(%)
A	0(0)	0(0)
B+	3(0)	18.8(0)
B	9(4)	56.3(67.7)
C	4(2)	25.0(33.3)
C-	0(0)	0(0)
D	0(0)	0(0)
E	0(0)	0(0)
合計	16(6)	100

()内は昨年度の数値

4 点検・評価委員からの主な意見

(1) 全体評価

- ア 不登校には様々な理由が要因となるほか、単純に登校＝解決だけを成果とせず、「改善」という、子どもの状況をよりよくしていく項目が各機関の成果に定められていた点が意義のあることと考えられる。
- イ 基本的な生活習慣や学びの芽を育むこと、教育内容の向上、幼児教育から小学校教育への移行については、実態把握、課題抽出、改善に取り組んでおり一定の評価ができるが、教育・保育施設の運営については、より「子どもの最善の利益」を重視した取り組み方が必要になる。
- ウ 学習状況（学力・意識部分ともに）に中学校に課題があるため要因等の分析と取組の一層の充実が求められる。

(2) 今後の期待・要望

- ア 生活習慣やむし歯について、児童・生徒が適切な意思決定・行動選択を行う力があるかどうかを確認したり、それを育成するための取組をより一層充実させることが重要であり、園児においても自ら取り組んでいるかどうかの視点やそのための保育者の取り組み方についても視点が必要である。
- イ 不登校児童生徒への支援開始前と開始後の変容（改善状況）を捉える指標の設定が望まれる。
- ウ 目標値を下回った指標についてはコロナ禍の影響によるものが考えられるが、課題を分析し今後の方針を明確にして改善に取り組んで欲しい。

5 今後の方針

- (1) 今回の評価結果は各所管へフィードバックし、次年度の事業展開や改善に反映させるとともに、次年度の評価の際に「反映結果」として評価する。
- (2) 指摘を受けたり、事業が終了・変更したため新設が必要となる指標については、適切な指標の設定に努める。

文教委員会報告資料

令和5年11月15日

件名	文部科学省リーディングDXスクール事業について
所管部課名	教育指導部学校ICT推進担当課
内容	<p>文部科学省は、令和5年度から、ICTの活用が盛んな学校をモデル校として指定し、その取組事例を全国的に展開させることを目的とした「リーディングDXスクール事業」を開始し、区も「一人一台端末を活用した授業実践モデル校 ※1」の指定を受けている。</p> <p>今回、同事業に「生成AIを活用したパイロット校 ※2」が追加され、区も指定を受けたため報告する。</p> <p>※1 モデル校 一人一台端末を活用した授業が全国の模範となる学校</p> <p>※2 パイロット校 生成AIを活用した事例を実証実験する学校</p> <p>1 一人一台端末を活用した授業実践モデル校（活用事例の展開）</p> <p>(1) 目的 GIGA 端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用しているモデル校の授業や校務の事例を全国展開する。</p> <p>(2) モデル校 興本扇学園、西新井小学校、舎人小学校、足立入谷小学校、第十四中学校</p> <p>(3) モデル校での取組内容 ア 汎用的なソフトウェアやクラウド環境を活用した授業や校務の先進的な研究 イ 研究内容について、各校1回の授業公開や実践報告会、ICT支援員との連携等を通じて、区内学校と共有 ウ 文部科学省に対して、授業実践等を報告 ※ 都内では、足立区のほかに渋谷区が指定を受けている。</p> <p>2 生成AIを活用したパイロット校（実験的な事例の創出）</p> <p>(1) 目的 文部科学省における議論を深めるために、学校現場での生成AI活用について、パイロット校が実験的な事例を創出し、報告する。</p>

(2) パイロット校

興本扇学園、第九中学校、第十四中学校

※ 本パイロット事業は、原則として中学校を対象としている。

(3) パイロット校での取組内容

文部科学省「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」に示されている事例をもとに、校務において生成 AI を活用し、その内容を文部科学省に報告する。

※ 都内では、足立区のほかに千代田区、八丈町が指定を受けている。

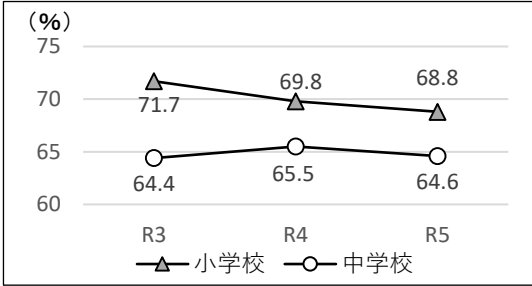
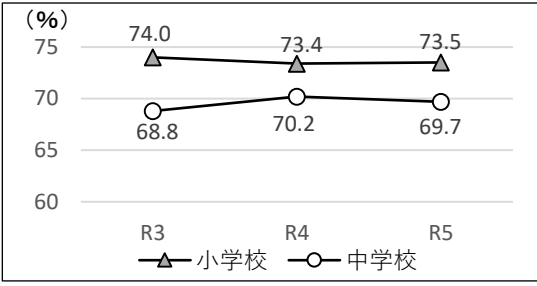
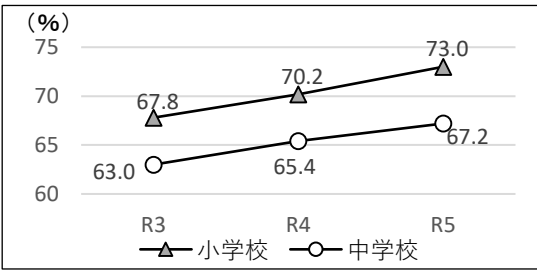
文教委員会報告資料

令和5年11月15日

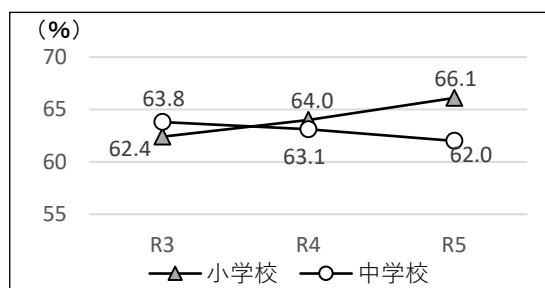
件名	実用英語技能検定受験支援事業における第1回受験結果及び第2回申込状況について																																										
所管部課名	教育指導部学力定着推進課																																										
内容	<p>今年度より開始した実用英語技能検定受験支援事業における、第1回の受験結果及び第2回の申込状況について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 概要</p> <p>(1) 内容 実用英語技能検定3級以上の受験費用を全額公費負担（一人1回まで）する。</p> <p>(2) 対象 区立中学校に通う中学3年生</p> <p>(3) 申込状況 全対象生徒（4,567人、5月1日現在）のうち、第1・2回合わせて39.8%（第1回：23.0%、第2回：16.8%）が申し込んだ。</p> <p>2 第1回（5～7月実施）の受験結果</p> <table border="1" data-bbox="443 1104 1359 1368"> <thead> <tr> <th></th> <th>1級</th> <th>準1級</th> <th>2級</th> <th>準2級</th> <th>3級</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験者数</td> <td>3人</td> <td>1人</td> <td>47人</td> <td>331人</td> <td>669人</td> <td>1,051人</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>10人</td> <td>159人</td> <td>393人</td> <td>562人</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>21.3%</td> <td>48.0%</td> <td>58.7%</td> <td>53.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 第2回（9～11月実施）の申込状況</p> <table border="1" data-bbox="443 1442 1359 1559"> <thead> <tr> <th></th> <th>1級</th> <th>準1級</th> <th>2級</th> <th>準2級</th> <th>3級</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>1人</td> <td>7人</td> <td>48人</td> <td>175人</td> <td>538人</td> <td>769人</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 現場の声</p> <p>(1) 高校進学を見据えての受験勧奨がしやすくなった。</p> <p>(2) 支援事業があることで、より上位の級（準2級など）にチャレンジする生徒が増えた。</p> <p>(3) 3級に挑戦する生徒が増えたことで、受験のハードルが下がったように感じる。</p> <p>(4) そもそも英検に関心がない生徒がいることに加え、合格する自信がなく受験を固辞する生徒も一定数いる。</p>		1級	準1級	2級	準2級	3級	合計	受験者数	3人	1人	47人	331人	669人	1,051人	合格者数	0人	0人	10人	159人	393人	562人	合格率	0%	0%	21.3%	48.0%	58.7%	53.5%		1級	準1級	2級	準2級	3級	合計	人数	1人	7人	48人	175人	538人	769人
	1級	準1級	2級	準2級	3級	合計																																					
受験者数	3人	1人	47人	331人	669人	1,051人																																					
合格者数	0人	0人	10人	159人	393人	562人																																					
合格率	0%	0%	21.3%	48.0%	58.7%	53.5%																																					
	1級	準1級	2級	準2級	3級	合計																																					
人数	1人	7人	48人	175人	538人	769人																																					

文教委員会報告資料

令和5年11月15日

<p>件名</p>	<p>令和5年度「足立区学力定着に関する総合調査」の調査結果（学習意識調査部分）について</p>
<p>所管部課名</p>	<p>教育指導部学力定着推進課</p>
<p>内容</p>	<p>令和5年4月13日に実施した、令和5年度「足立区学力定着に関する総合調査」のうち、意識調査の結果について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 調査結果について</p> <p>(1) 学びに向かう力</p> <p>ア 授業で学習したことを振り返る活動を通じて、学習内容に対する興味や関心が深まったり、広がったりしたと思う 【学習に関する自己調整】</p>  <p>イ わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している 【粘り強さ】</p>  <p>(2) 言語能力、情報活用能力について</p> <p>ア 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる 【言語能力】</p> 

イ 先生から示された課題や自分で立てた課題について、インターネットや図書等から必要な情報を集め、整理することができる【情報活用能力】



※ その他の主要項目の結果は、P 11～17 参照

2 調査結果の分析と今後の対応

(1) 結果の分析

ア 「学習に関する自己調整」「粘り強さ」は 小学校の「粘り強さ」を除き数値が微減している。足立スタンダードに基づく「めあて、まとめ、振り返り」の徹底と問題解決を中心とした授業における成功体験の積み重ねを通して、これら数値の向上を図っていく必要がある。

イ 「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝える」の項目は 大きく改善した。足立スタンダード型の授業では、自らの意見を述べたり、他者の考えを聞く場面が設定されており、この授業スタイルが数値向上の要因と考える。

ウ 中学校の「必要な情報を集め、整理する」の項目は年々微減している。ICT機器活用に加え、学校図書館を活用した探究的な学習を推進していく必要がある。

(2) 今後の対応

ア 分析結果を指導主事・学力定着指導員・教科指導専門員等が共有し、スタンダードスタイルの更なる質的向上を図るべく授業改善を推進し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに「学びに向かう力」の育成を目指す。

イ 1人1台のタブレット環境とともに学校図書館を活用した探究的な学習を推進し、言語能力や情報活用能力等の「学習の基盤となる資質・能力」を育成していく。

3 周知方法・時期

(1) 調査結果の詳細及び各学校の学力向上への主な取組等を「調査結果報告書」(冊子)にとりまとめ、12月下旬に関係機関に配付予定(ただし学校別ページについては、学校選択の参考資料となることから、すでに区ホームページに掲載済)。

(2) 報告書の「概要版」(リーフレット)を保護者に配付予定。

《参考》

1 実施日

令和5年4月13日（木）

2 調査実施人数

(1) 小学校

単位：人

2年	3年	4年	5年	6年	計
4,614	4,714	4,654	4,832	4,839	23,653

(2) 中学校

単位：人

1年	2年	3年	計
4,155	4,104	4,137	12,396

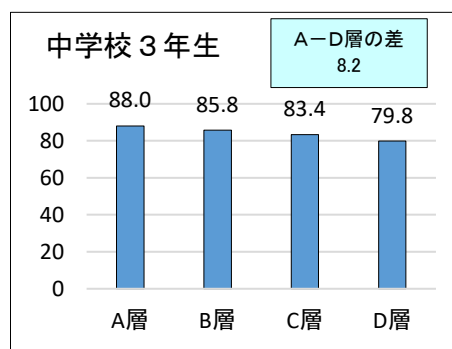
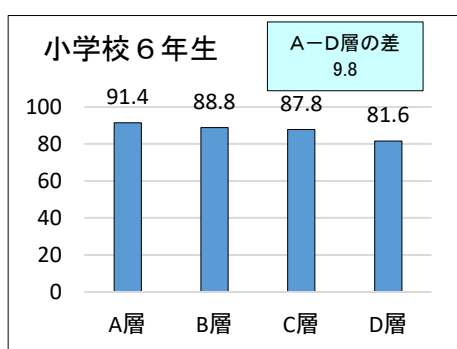
主要項目の学習意識調査結果（小中別・学力層別）

- ・ 学力層は、成績順にA層（上位層）、B層（中上位層）、C層（中下位層）、D層（下位層）の4層に区分したもの（各層概ね25%）
- ・ 各設問の数値は、肯定的な回答の割合を表す（単位：%）
- ・ カッコ内の数値は、昨年度からの増減を表す（単位：ポイント）

（1）学校への意識についての設問

ア 学校に行くのが楽しい

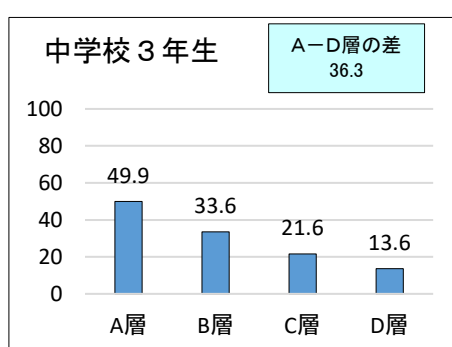
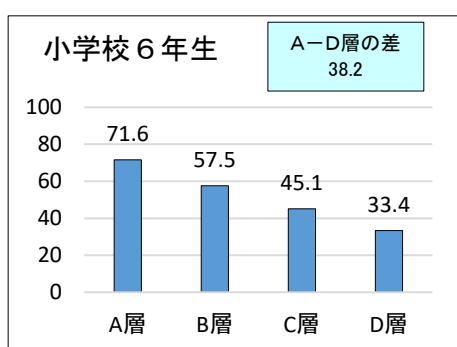
小学校全体	中学校全体
88.4 (-0.3)	86.2 (±0.0)



（2）勉強・教科に関する意識についての設問

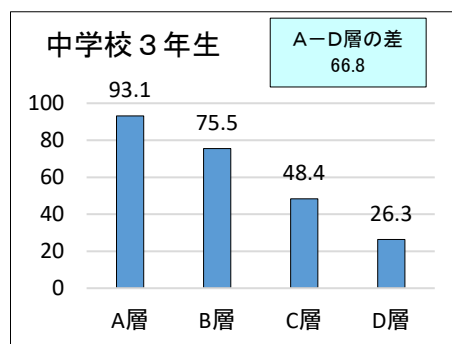
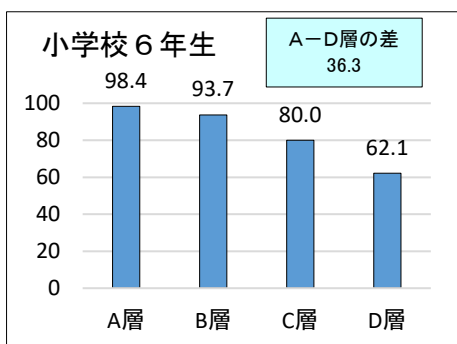
ア 勉強は好きだ

小学校全体	中学校全体
66.1 (-1.1)	34.1 (-2.6)



イ 学校の授業はどの程度分かるか

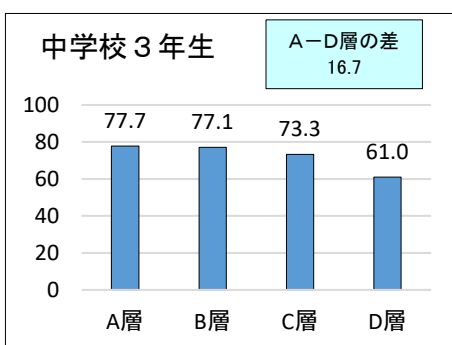
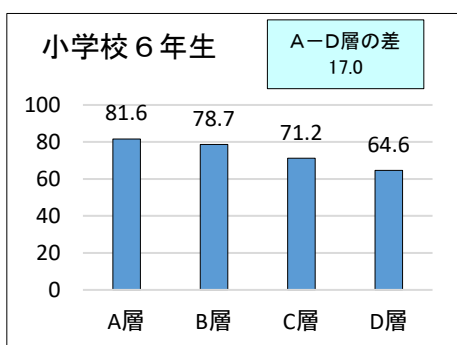
小学校全体	中学校全体
87.9 (+0.2)	66.5 (-0.9)



(3) 授業における学びの状況についての設問

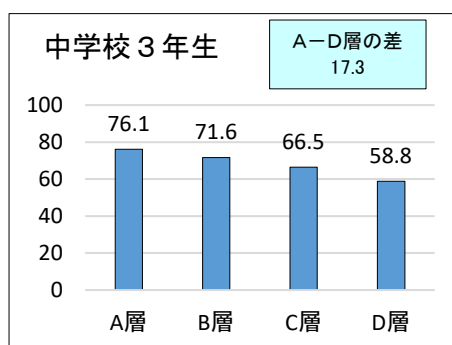
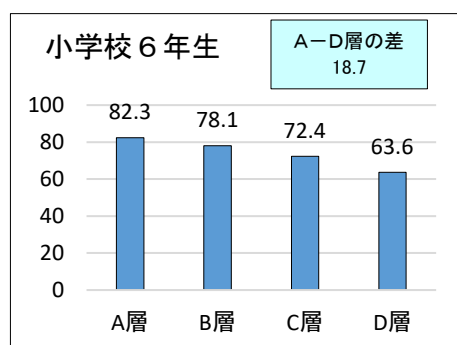
ア 授業のはじめに示された目標（めあて・ねらい）を理解し、見通しをもって学習に取り組んだと思う

小学校全体	中学校全体
74.6 (-2.9)	72.7 (-6.0)



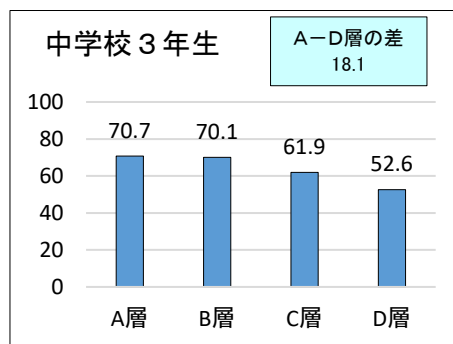
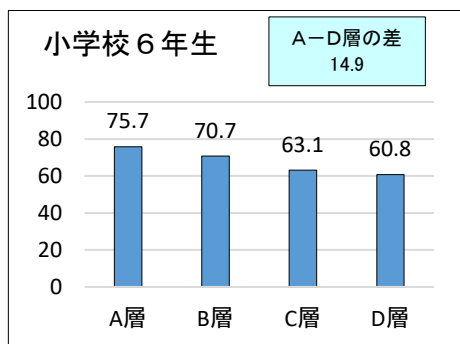
イ グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合うことができたと思う

小学校全体	中学校全体
75.1 (+0.8)	68.3 (+1.4)



ウ 授業で学習したことを振り返る活動を通じて、学習内容に対する興味や関心が深まったり、広がったりしたと思う

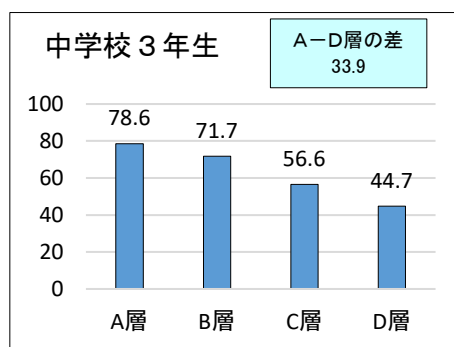
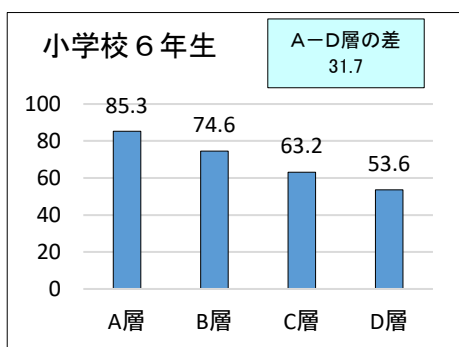
小学校全体	中学校全体
68.8 (-1.0)	64.6 (-0.9)



(4) 自ら学ぶ力についての設問

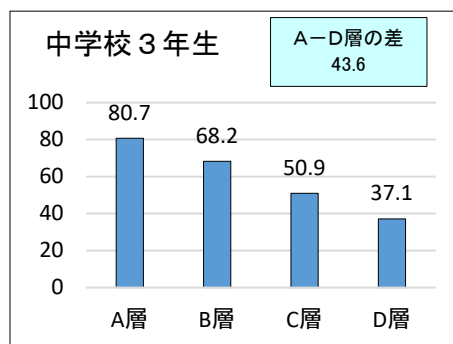
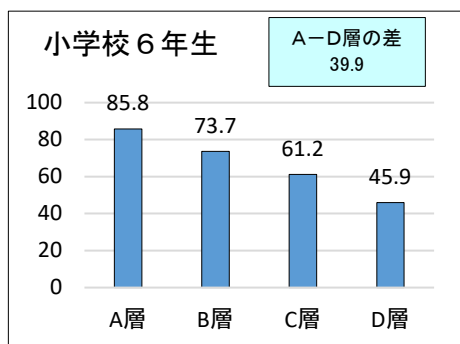
ア 先生から示された課題や自分で立てた課題について、インターネットや図書等から必要な情報を集め、整理することができる

小学校全体	中学校全体
66.1 (+2.1)	62.0 (-1.1)



イ これまで学習したことを使って新しい問題を工夫して解決している

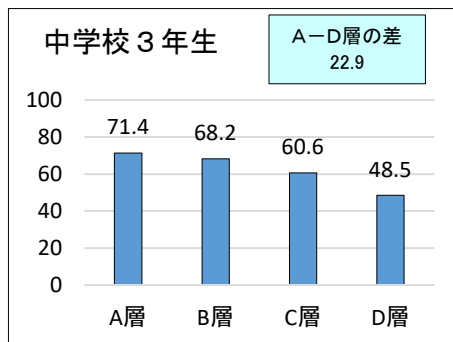
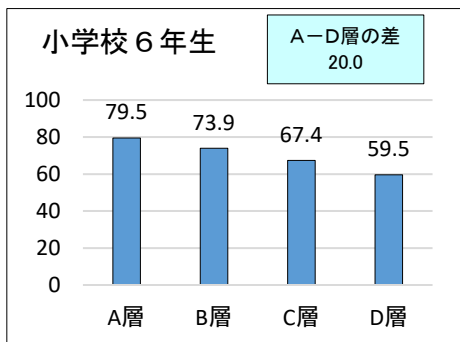
小学校全体	中学校全体
68.3 (+1.1)	60.1 (+0.6)



(5) 学びを律する力についての設問

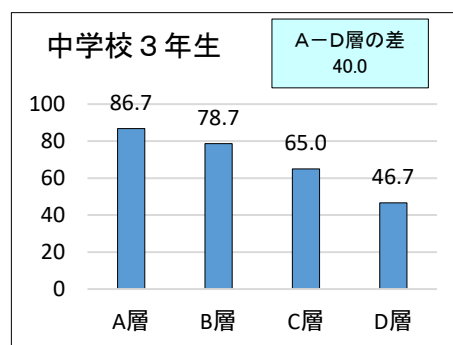
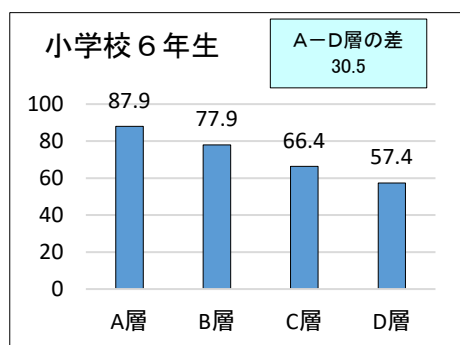
ア 不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしている

小学校全体	中学校全体
71.9 (+0.3)	64.2 (-0.3)



イ わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している

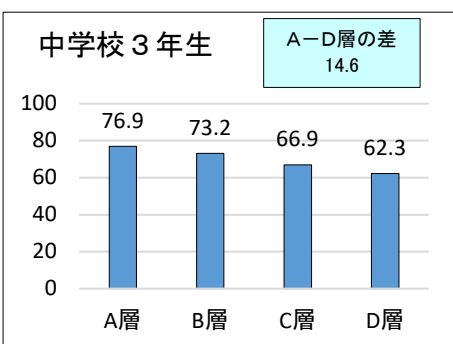
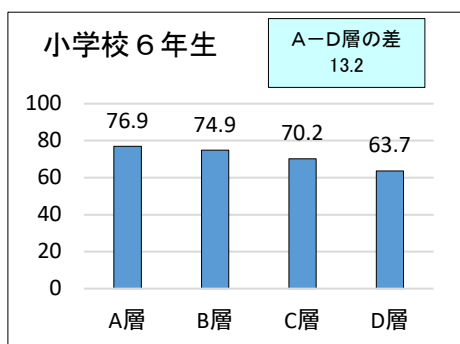
小学校全体	中学校全体
73.5 (+0.1)	69.7 (-0.5)



(6) 自己肯定感についての設問

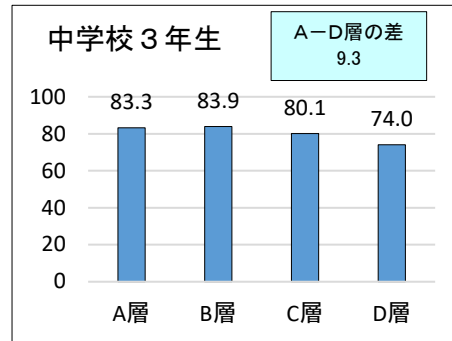
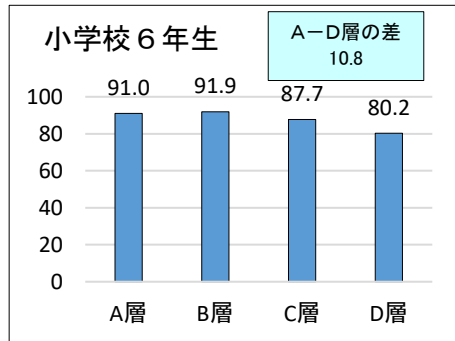
ア 自分にはよいところがあると思う

小学校全体	中学校全体
77.8 (+2.6)	69.8 (+1.2)



イ 努力をすれば、自分もたいいのことはできると思う

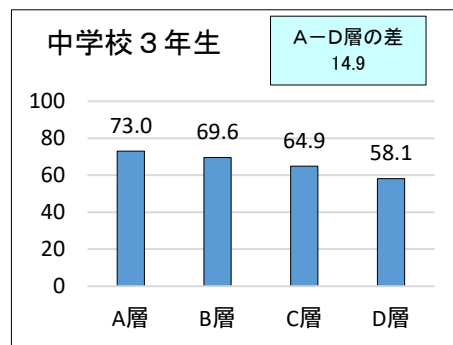
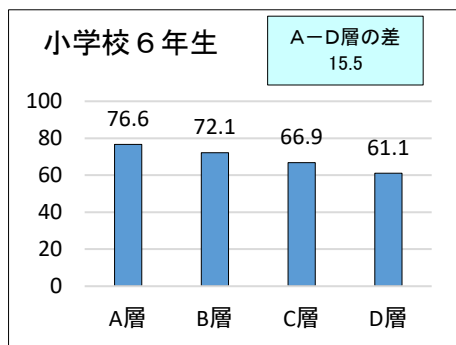
小学校全体	中学校全体
88.0 (+1.7)	82.4 (+0.9)



(7) 自制心・勤勉性についての設問

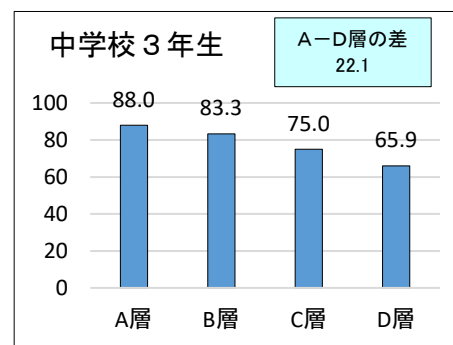
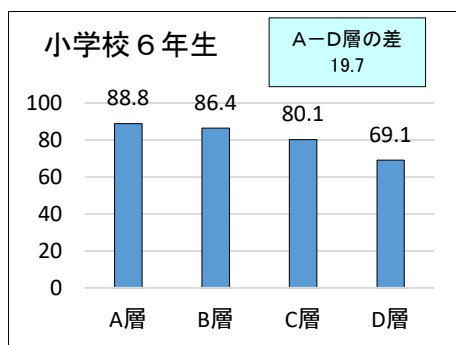
ア 難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる

小学校全体	中学校全体
79.1 (+1.3)	67.4 (+1.5)



イ 自分がやらなければならないことは、やりたくないときでも、きちんとやりぬくことができる

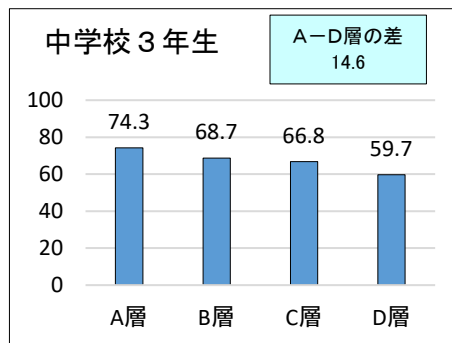
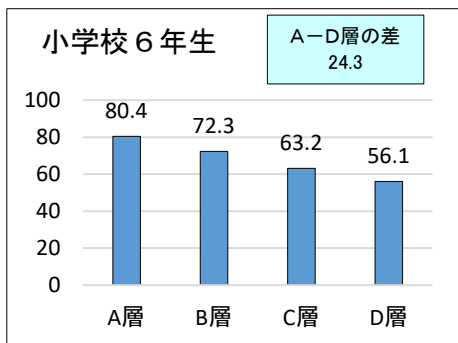
小学校全体	中学校全体
85.2 (+0.3)	79.1 (-0.3)



(8) 他者理解・協調性についての設問

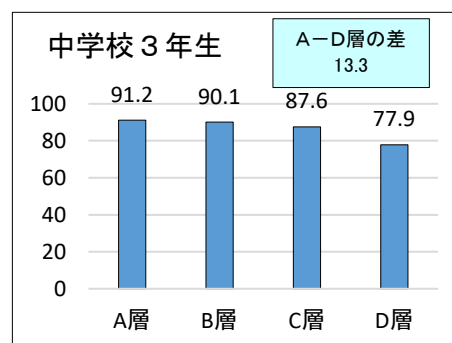
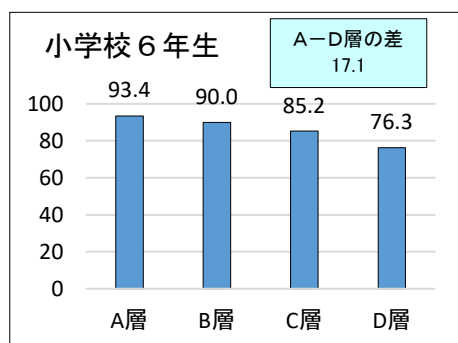
ア 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる

小学校全体	中学校全体
73.0 (+2.8)	67.2 (+1.8)



イ 自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとしている

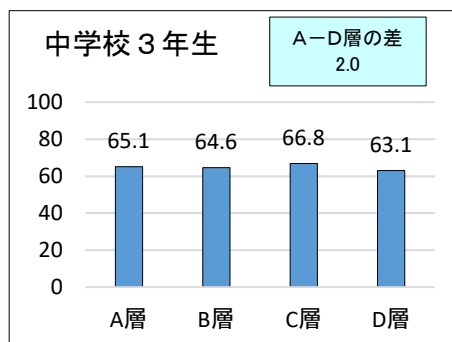
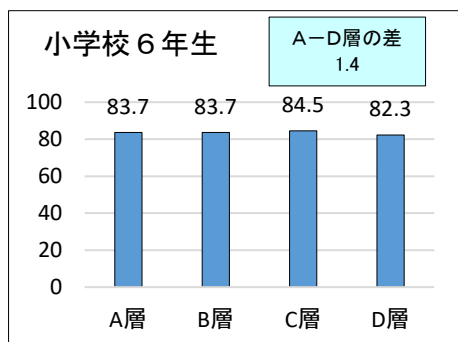
小学校全体	中学校全体
86.2 (+1.6)	86.1 (+1.4)



(9) キャリア形成意欲についての設問

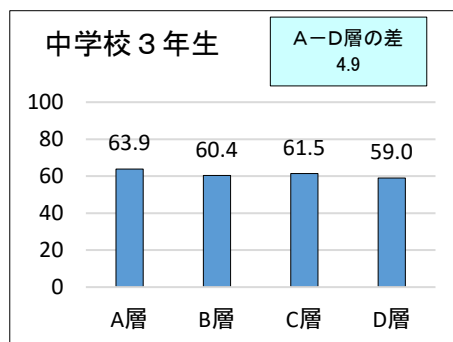
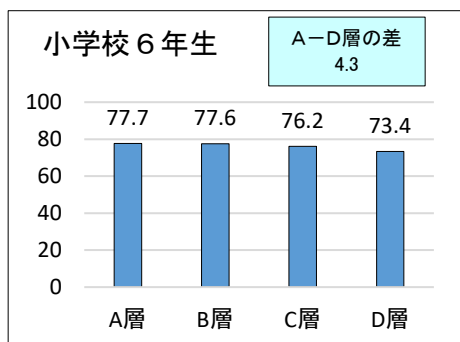
ア 将来の夢や目標を持っている

小学校全体	中学校全体
87.8 (+1.1)	70.7 (+1.0)



イ 自分の将来の夢や目標の実現に向かって努力したり、その方法を工夫・改善したりしている

小学校全体	中学校全体
77.5 (+1.3)	65.7 (+0.4)



文教委員会報告資料

令和5年11月15日

件名	台風・大雨・大雪時等におけるオンライン授業の実施について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内容	<p>台風・大雨・大雪時等におけるオンライン授業の実施について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 現在の対応</p> <p>(1) 台風・大雨・大雪時等の休校判断（P19～20参照）は、午前6時に東京都23区東部（足立区）において、「特別警報『大雨』『暴風』『大雪』『暴風雪』等」及び「暴風警報」「暴風雪警報」が発令されている場合、全校休校としている。</p> <p>(2) その他、児童・生徒の安全が十分確保できない場合については、災害対策本部の方針に従うとともに、学校長判断で登下校の時刻を変更する等の対応をしている。</p> <p>2 今後の方針</p> <p>(1) 上記1（1）の対応は、今後も継続する。</p> <p>(2) 休校判断条件以外の気象条件（台風、線状降水帯、河川の水難、大雪等）により、上記1（2）の児童・生徒の安全が危ぶまれる場合については、原則、児童・生徒は登校せず、タブレット端末を活用したオンライン授業を実施することとする。 なお、教職員も同様とする。</p> <p>(3) オンライン授業に関する準備やフォローについて、学校ICT推進担当課が対応マニュアル（P21～23参照）を作成し、教職員へ配布する。</p> <p>(4) 足立区の災害対策本部の方針に従って、危機管理課と教育委員会とで協議し、今後検討が必要な点について整理する。</p>

台風、地震、水難等自然災害時の登下校の対応について（一部改訂）

令和5年6月12日

足立区教育委員会

1 足立区立小・中学校が全校休校となる場合

(1) 午前6時に東京都23区東部（足立区）において「特別警報（『大雨』『暴風』『大雪』『暴風雪』等）」が発令されている場合

(2) 午前6時に東京都23区東部（足立区）において「暴風警報」「暴風雪警報」が発令されている場合

※ 大雨警報や強風注意報などは休校にならない。ただし、登校については下記の「4. 学校長判断による対応となる場合」を参照の上、校長の判断とする。

2 一部の学校のみが休校となる場合

(1) 学校の所在地に、足立区から「避難準備・高齢者等避難」以上が発令された場合（「避難指示」「緊急安全確保」を含む）。

(2) 学校が避難所となった場合。

※下線は改訂部分。

3 保護者等への引き渡し対応となる場合

(1) 震度5弱以上の地震が発生した場合。

(2) 学校の所在地に、足立区から「避難準備・高齢者等避難」以上が発令された場合（「避難指示」「緊急安全確保」を含む）。

(3) 学校が避難所となった場合。

※下線は改訂部分。

4 学校長判断による対応となる場合

「1 足立区立小・中学校が全校休校となる場合」・「2 一部の学校のみが休校となる場合」を除いては、「原則登校になるが、校長の判断で登下校の時刻を早めたり遅らせたりして、児童・生徒の安全確保に努める。その対応として、保護者判断で登校させない、登校を遅らせるなども校長判断に含まれる。」

5 教育指導課への報告について

校長の判断で登下校時刻を遅らせたり早めたりする場合は、決定次第、教育指導課へ連絡をお願いします。

区内全学校の対応状況を把握するために、校務支援システムのアンケート機能（Yes, No）を活用した調査を実施する場合もある。その場合は、ご協力をお願いします。

6 自然災害時の登下校の対応について

台風（大雨、強風）

登校時	登校後及び下校時
○ 校長の判断で登校時刻を遅らせる場合は、決定次第、教育指導課へ連絡する。	○ 登校後、風雨の状況が悪化すると予測できる場合は、校長の判断で、下校時刻を早めるなどの対応をする。その場合の通常下校、集団下校または保護者等への引き渡しについても児童・生徒の安全を第一に、校長が判断する。 ○ 校長の判断で下校時刻を早めたり遅らせたりする場合は、決定次第、教育指導課へ連絡する。

地震

発生時	登校後及び下校時
○ 震度5弱以上の地震が発生した場合、学校管理下・管理外において、学校長は児童・生徒の被災状況一覧表に基づき、教育指導課へ状況を報告する。 (足立区防災関連計画・マニュアル集 足立区業務継続計画【地震編】より)	○ 震度5弱未満の場合でも、鉄道の運行状況や被災状況等により、学校長の判断で、引き渡し対応等で下校時刻が早めたり遅らせたりする場合は、決定次第、教育指導課へ連絡する。 (23教指企第397号(平成23年7月19日付)通知より)

降雪

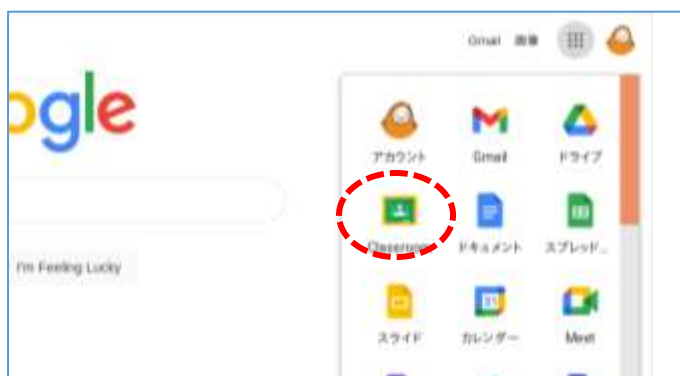
登校時	登校後及び下校時
○ 校長の判断で登校を遅らせる場合は、教育指導課まで連絡する。	○ 校長の判断で、通常下校、集団下校または保護者等への引き渡し対応とする。 ○ 校長の判断で下校時刻を早めたり遅らせたりする場合は、決定次第、教育指導課へ連絡する。

◎ なお、台風・地震・降雪を含め、気象状況によっては、教育指導課より休校または保護者等への引き渡し対応をお願いすることもある。

Google Classroom と Google Meet とは…

Google クラスルームとは、児童生徒との連絡やデジタルの資料を送ったり受け取ったりするアプリケーションです。Google クラスルームには、オンラインアプリケーションの Meet が内蔵されていて、オンラインでの授業や交流が可能です。

- ① ログインを済ませ、Google クラスルームを選択します。ログイン方法については、「Google アカウントの利用について」をご覧ください。



- ② Google クラスルームの基本操作



- | | |
|---|--|
| 1 | Google Meet の参加ボタンをクリックするとオンラインで児童生徒とやり取りができます。教師しか Meet を開くことはできません。 |
| 2 | 先生からの連絡をストリームに送れます。教師からのみの単一方向のやりとりや児童生徒からの双方向のやりとりを設定することができます。 |
| 3 | 教師からのデジタルの資料などが保管される場所です。資料は日付や教科毎にトピックを作ってまとめて保管できます。児童生徒は資料をここから確認することができます。 |

Google Meet 基本操作

①Google クラスルームに表示されている参加ボタン（前ページ 1 の部分）をクリックします。すぐにオンライン開始です。

※注意！教師が参加していないとオンラインを始めることができません。児童生徒だけでは実施できませんので開始時間等を周知してください。

②以下は基本操作画面です。

The image shows a screenshot of the Google Meet interface with a dark background. At the top, there is a browser address bar showing 'meet.google.com/ekc-aryu-sts?authuser=0'. Below the address bar, there are several callout boxes with text explaining different features. In the center, there is a red circle with the Japanese characters '先生' (Teacher) inside. At the bottom, there is a control bar with various icons for camera, microphone, chat, etc. The callouts are as follows:

- ①【ビジュアル エフェクト】**
ビデオカメラの背景に映り込んでしまうものを、相手へ見えなくすることができます。
- ②【カメラ】**
斜め線がある状態はカメラオフ状態です。教師の様子や黒板を写すときはカメラオンにします。児童生徒は、基本はカメラオフとして、必要に応じてカメラオンにする指示を出します。
- ③【共有】**
教師の画面やタブを共有します。デジタル教科書や Google スライド等を使って授業ができます。
- ④【挙手】**
質問や合意等を求めるときに利用します。
- ⑤【チャット】**
教師の話をする時等児童生徒が声を出せない場面で、文章で質問や感想を送ることができます。Meet を閉室すると消えてしまいます。
- ⑥【マイク】**
斜め線がある状態はミュート（消音）状態です。児童生徒は、基本はマイクオフとして、必要に応じてマイクオンにする指示を出します。
- ⑦【字幕】**
話していることが字幕として表示されます。
- ⑧【リアクション】**
拍手や同意、分かったや分からない等の反応を求められます。
- ⑨【受話器】**
オンラインを終了するときはここをクリックします。必ずここから【全員を退出させて】終了します。そうしないと児童生徒のみでオンラインのやりとりが継続できる状態になってしまいます。

At the top left, a callout box says: カメラがオフの状態です。初期設定では、カメラはオンになっています。

オンライン授業のステップ

ステップ1 まずはこれから！

「映像を届けましょう」基本操作①②⑥⑦

カメラをONにして先生の声と姿が児童生徒に届くようにしましょう。これでオンライン授業はできます。カメラの向きを変えて黒板や教材教具が映るようにすることもできます。

ステップ2 より視覚的に！

「データの共有をしましょう」基本操作①②③⑥⑨

ステップ1の映像のやりとりをしながら、③共有ボタンで、教師のタブレットの画面やデジタル教科書を児童生徒へ配信します。共有している間はカメラの映像は映りません。

オンライン授業時の注意点

☑ 背景は大丈夫？基本操作①

背景が映りこまないようにするためには、ビジュアルエフェクトを設定しましょう。

☑ マイクはつけた？基本操作⑥

ミュートのままだと相手に声が届きません。ミュート解除を忘れずにしましょう。

☑ 全員退出した？基本操作⑨

終了時は必ず「全員退出」をさせましょう。全員退出させないと、先生退出後も子どもだけ

でオンラインが継続される場合があります

文教委員会報告資料

令和5年11月15日

件名	令和5年度「東京都児童・生徒体力・運動能力等調査」の結果について																																																																																																																		
所管部課名	教育指導部教育指導課																																																																																																																		
内容	<p>令和5年度に実施した「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果（速報版）から見えた足立区の児童・生徒の体力等の現状を、以下のとおり報告する。</p> <p>1 調査対象及び実施期間</p> <p>(1) 対象 区立小中学校に通う全児童・生徒 (2) 期間 令和5年4月から同年6月までに実施</p> <p>2 調査項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>調査項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>握力</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>上体起こし</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>長座体前屈</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>反復横跳び</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>20mシャトルラン・持久走 ※</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>50m走</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>立ち幅跳び</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 小学生は20mシャトルランを実施。中学生はどちらかを選択して実施。</p> <p>3 総合得点の経年変化</p> <table border="1"> <caption>小学校 男子</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>区</th> <th>都</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>45.5</td> <td>45.9</td> <td>▲0.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>45.0</td> <td>45.4</td> <td>▲0.4</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>44.4</td> <td>44.6</td> <td>▲0.3</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>44.4</td> <td>44.6</td> <td>▲0.2</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>44.7</td> <td>44.6</td> <td>0.1</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>小学校 女子</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>区</th> <th>都</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>46.5</td> <td>46.6</td> <td>▲0.1</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>46.2</td> <td>46.2</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>45.6</td> <td>45.5</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>45.4</td> <td>45.3</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>45.5</td> <td>45.0</td> <td>0.5</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>中学校 男子</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>区</th> <th>都</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>39.7</td> <td>40.8</td> <td>▲1.1</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>39.7</td> <td>40.5</td> <td>▲0.8</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>39.1</td> <td>39.9</td> <td>▲0.8</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>39.8</td> <td>40.1</td> <td>▲0.3</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>40.3</td> <td>40.3</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>中学校 女子</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>区</th> <th>都</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>46.6</td> <td>48.7</td> <td>▲2.1</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>46.9</td> <td>48.5</td> <td>▲1.6</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>45.6</td> <td>46.9</td> <td>▲1.3</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>45.4</td> <td>46.3</td> <td>▲0.9</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>45.2</td> <td>46.0</td> <td>▲0.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ R2は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校措置のため未実施 ※ 表中の数字は、端数処理の関係で、差引が一致しない箇所もある。</p>	番号	調査項目	1	握力	2	上体起こし	3	長座体前屈	4	反復横跳び	5	20mシャトルラン・持久走 ※	6	50m走	7	立ち幅跳び	8	ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール)	年度	区	都	差	H30	45.5	45.9	▲0.4	R1	45.0	45.4	▲0.4	R3	44.4	44.6	▲0.3	R4	44.4	44.6	▲0.2	R5	44.7	44.6	0.1	年度	区	都	差	H30	46.5	46.6	▲0.1	R1	46.2	46.2	0.0	R3	45.6	45.5	0.2	R4	45.4	45.3	0.1	R5	45.5	45.0	0.5	年度	区	都	差	H30	39.7	40.8	▲1.1	R1	39.7	40.5	▲0.8	R3	39.1	39.9	▲0.8	R4	39.8	40.1	▲0.3	R5	40.3	40.3	0.0	年度	区	都	差	H30	46.6	48.7	▲2.1	R1	46.9	48.5	▲1.6	R3	45.6	46.9	▲1.3	R4	45.4	46.3	▲0.9	R5	45.2	46.0	▲0.8
	番号	調査項目																																																																																																																	
	1	握力																																																																																																																	
	2	上体起こし																																																																																																																	
	3	長座体前屈																																																																																																																	
	4	反復横跳び																																																																																																																	
	5	20mシャトルラン・持久走 ※																																																																																																																	
	6	50m走																																																																																																																	
	7	立ち幅跳び																																																																																																																	
	8	ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール)																																																																																																																	
年度	区	都	差																																																																																																																
H30	45.5	45.9	▲0.4																																																																																																																
R1	45.0	45.4	▲0.4																																																																																																																
R3	44.4	44.6	▲0.3																																																																																																																
R4	44.4	44.6	▲0.2																																																																																																																
R5	44.7	44.6	0.1																																																																																																																
年度	区	都	差																																																																																																																
H30	46.5	46.6	▲0.1																																																																																																																
R1	46.2	46.2	0.0																																																																																																																
R3	45.6	45.5	0.2																																																																																																																
R4	45.4	45.3	0.1																																																																																																																
R5	45.5	45.0	0.5																																																																																																																
年度	区	都	差																																																																																																																
H30	39.7	40.8	▲1.1																																																																																																																
R1	39.7	40.5	▲0.8																																																																																																																
R3	39.1	39.9	▲0.8																																																																																																																
R4	39.8	40.1	▲0.3																																																																																																																
R5	40.3	40.3	0.0																																																																																																																
年度	区	都	差																																																																																																																
H30	46.6	48.7	▲2.1																																																																																																																
R1	46.9	48.5	▲1.6																																																																																																																
R3	45.6	46.9	▲1.3																																																																																																																
R4	45.4	46.3	▲0.9																																																																																																																
R5	45.2	46.0	▲0.8																																																																																																																

4 調査結果

(1) 令和4年度からの変容 (◎向上 ▲低下 ー同程度)

種 目	小学生		中学生	
	男子	女子	男子	女子
握力 (筋力)	▲	▲	◎	ー
上体起こし (筋力・筋持久力)	◎	◎	▲	▲
長座体前屈 (柔軟性)	◎	◎	◎	◎
反復横跳び (敏捷性)	◎	◎	◎	▲
20mシャトルラン (全身持久力)	◎	▲	◎	▲
持久走 (全身持久力)			◎	▲
50m走 (スピード)	◎	ー	▲	▲
立ち幅跳び (瞬発力)	◎	◎	◎	◎
ソフトボール投げ (巧緻性・瞬発力)	◎	◎		
ハンドボール投げ (巧緻性・瞬発力)			◎	▲

ア 令和4年度の記録と比較して、全体的に向上している項目が多い。

イ 長座体前屈 (柔軟性) や立ち幅跳び (瞬発力) が小学校・中学校の男女ともに向上している。

ウ 中学生女子の全体的な体力低下が目立つ。

(2) 東京都の平均との比較 (◎高い ▲低い ー同程度)

種 目	小学生		中学生	
	男子	女子	男子	女子
握力 (筋力)	▲	▲	◎	◎
上体起こし (筋力・筋持久力)	◎	◎	◎	▲
長座体前屈 (柔軟性)	▲	▲	▲	▲
反復横跳び (敏捷性)	◎	◎	◎	▲
20mシャトルラン (全身持久力)	◎	◎	▲	▲
持久走 (全身持久力)			▲	▲
50m走 (スピード)	▲	ー	▲	▲
立ち幅跳び (瞬発力)	◎	◎	◎	▲
ソフトボール投げ (巧緻性・瞬発力)	▲	◎		
ハンドボール投げ (巧緻性・瞬発力)			▲	▲

ア 敏捷性や瞬発力、筋力について東京都の平均より高い傾向がある。

イ 長座体前屈 (柔軟性) 及び50m走 (スピード) が小学校・中学校ともに東京都の平均より低い傾向がある。

ウ ボール投げ (巧緻性・瞬発力) の記録は令和4年度と比較すると

改善がみられるが、依然として東京都の平均と比べて低い傾向がある。

5 今後の方針

- (1) 令和5年11月下旬を目途に、東京都から確定値が送付される予定である。確定値をもって、結果の経年比較や詳細な分析を行う。
- (2) 児童・生徒の体力に関する課題や対策について、校長会、区小研、区中研等と共有・連携をし、「体力向上につながる好事例を区立小中学校へ広げる機会の設定」や「運動機会を創出する関係団体等と連携した取組」など、課題解決に向けた継続性のある実践を推進していく。
- (3) 東京都、足立区ともに、平成30年度から比較すると体力が低下傾向にある。児童・生徒の日常的な運動習慣の確立と、運動の楽しさや喜びを味わうことのできる授業実践に係る取組を推進していく。

文教委員会報告資料

令和5年11月15日

件名	不登校未然防止事業の進捗状況について																		
所管部課名	教育指導部教育指導課																		
内容	<p>六月中学校でモデル実施している「不登校未然防止事業」の進捗状況を報告する。</p> <p>1 本事業と別室登校支援の差異について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>登校支援室（モデル事業）</th> <th>別室登校支援（既存事業）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者</td> <td>自力登校可だが、教室に居られない者</td> <td>自力登校不可の者</td> </tr> <tr> <td>支援場所</td> <td colspan="2">教室以外の校内別室 ※六月中では両支援を同室で実施、効果検証中</td> </tr> <tr> <td>指導員・支援員</td> <td> 学校長OB、副校長OB、教員OB等 ※学習指導に対応できる者、常駐 </td> <td> 登校サポーター ※学習指導対応不可、1日3時間限度 </td> </tr> <tr> <td>支援内容</td> <td>寄り添い支援＋相談・学習指導にも対応</td> <td>寄り添い支援</td> </tr> <tr> <td>期待する効果</td> <td>教室復帰・適した学習環境へのつなぎ</td> <td>登校の定着</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 現在の六月中別室（SSR*）の利用状況 令和5年10月末時点で18名の生徒が利用している。 *SSRは、スモールステップルームの略称</p> <p>3 SSRで改善が見られた事例</p> <p>【事例1】 2年男子 教室にいられず、校内を徘徊したり、トイレにとじこもったりしていたが、SSRを利用させるようになってから、ほぼ毎日9時～15時過ぎまでSSRで勉強(小学校の内容を短時間)や簡易卓球をして過ごしている。</p> <p>【事例2】 2年女子 6月ぐらいまでSCとの面談に来ていたがなかなか定着していなかった。SCからSSRの利用を促されて水曜日と金曜日はほぼ登校してSSRで勉強して過ごしている。</p> <p>【事例3】 3年女子 気分の浮き沈みで、保健室に話を聞いてもらいに時々来ていた。体調不良者が多いときにSSRへ行かせたところ、そこにいるスタッフにしゃべりたいだけしゃべると次の時間は自分で教室に戻ることができた。その後も時々SSRに来ては、気分転換して教室に戻れるようになった。</p>		登校支援室（モデル事業）	別室登校支援（既存事業）	対象者	自力登校可だが、教室に居られない者	自力登校不可の者	支援場所	教室以外の校内別室 ※六月中では両支援を同室で実施、効果検証中		指導員・支援員	学校長OB、副校長OB、教員OB等 ※学習指導に対応できる者、 常駐	登校サポーター ※学習指導対応不可、1日3時間限度	支援内容	寄り添い支援＋相談・学習指導にも対応	寄り添い支援	期待する効果	教室復帰・適した学習環境へのつなぎ	登校の定着
		登校支援室（モデル事業）	別室登校支援（既存事業）																
対象者	自力登校可だが、教室に居られない者	自力登校不可の者																	
支援場所	教室以外の校内別室 ※六月中では両支援を同室で実施、効果検証中																		
指導員・支援員	学校長OB、副校長OB、教員OB等 ※学習指導に対応できる者、 常駐	登校サポーター ※学習指導対応不可、1日3時間限度																	
支援内容	寄り添い支援＋相談・学習指導にも対応	寄り添い支援																	
期待する効果	教室復帰・適した学習環境へのつなぎ	登校の定着																	

4 今後の方針

- (1) 指導主事のSSR訪問など六月中学校との連携を密にし、生徒の状況を共有するとともに、現場の望む環境整備を支援していく。
- (2) 支援の成果指標を設定し、事業効果を測っていく。

【成果指標の設定例】

- ① 行動の変容が見られた生徒数
- ② 自己肯定感の向上が見られた生徒数
- ③ 個々の生徒の状況に適した学習環境へのつなぎ件数・つなぎ先の定着率

文教委員会報告資料

令和5年11月15日

件名	令和6年度用務業務委託のプロポーザル方式から競争入札への移行について
所管部課名	学校運営部学校支援課
内容	<p>小中学校用務業務委託の業者選定はプロポーザル方式で行っていたが、令和4年度監査結果報告の監査委員意見を受け、令和6年度契約から、以下のとおり競争入札へ移行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 契約件名 小中学校用務業務委託 2 契約方法 指名競争入札 3 競争入札となる契約期間（予定） 令和6年4月1日～令和9年3月31日 4 対象校数及び契約数 合計27校（小学校17校、中学校10校） 5契約（1契約5～6校のグループ） 5 入札参加要件 本件指名日現在で過去5年間において、学校用務業務の契約実績があること。また、現在履行中の実績を含める。 6 履行状況の評定（予定） 足立区業務委託履行状況評定要綱に基づき履行状況の評定を行う予定である。 7 今後の方針 全102校のうち、残りの75校については、順次、令和7年度に39校、令和8年度に36校を競争入札に移行していく。

文教委員会報告資料

令和5年11月15日

件名	足立区立校外施設の賄料（食事料）の変更について																												
所管部課名	学校運営部学務課																												
内容	<p>足立区立校外施設における一般利用の賄料（食事料）を以下のとおり変更する。</p> <p>1 変更の理由</p> <p>足立区立校外施設条例施行規則に規定されている一般利用の賄料は、平成4年から30年以上金額が変わっていない。昨今の物価高騰もあり、食事の質を今後も維持することが困難なため、以下のとおり金額を変更する。</p> <p>2 変更の内容（賄料）</p> <table border="1" data-bbox="416 943 1369 1149"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> <th>増額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大人用（朝・夕食）</td> <td>2,000円</td> <td>2,500円</td> <td>+500円</td> </tr> <tr> <td>こども用（朝・夕食）</td> <td>1,000円</td> <td>1,250円</td> <td>+250円</td> </tr> <tr> <td>昼食</td> <td>600円</td> <td>750円</td> <td>+150円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 令和5年度の食材料費（食用油・小麦粉等）は、令和3年度と比べ約25%増となっているため、現行料金×1.25とした。</p> <p>(2) 賄料は、上記範囲内で、教育委員会の承認を得て、指定管理者が決定することができる。</p> <p>(3) 賄料の増額に従い、一般利用料金は以下のとおりとなる。</p> <p>【施設使用料+賄料】</p> <table border="1" data-bbox="416 1444 1369 1603"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> <th>増額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大人</td> <td>3,650円</td> <td>4,150円</td> <td>+500円</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,750円</td> <td>2,000円</td> <td>+250円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 施設使用料（大人1,650円/こども750円）は、変更なし。</p> <p>3 適用年月日（予定）</p> <p>令和6年4月1日以降の宿泊分から適用する。</p> <p>4 今後の方針</p> <p>(1) 第12回教育委員会定例会に足立区立校外施設条例施行規則の改正の案件を提出する。</p> <p>(2) 今後、原則として5年おきに賄費の価格改定の検討をしていく。ただし、大幅な物価変動が生じた場合等については、その都度、見直しを行う。</p>	区分	変更前	変更後	増額	大人用（朝・夕食）	2,000円	2,500円	+500円	こども用（朝・夕食）	1,000円	1,250円	+250円	昼食	600円	750円	+150円	区分	変更前	変更後	増額	大人	3,650円	4,150円	+500円	こども	1,750円	2,000円	+250円
区分	変更前	変更後	増額																										
大人用（朝・夕食）	2,000円	2,500円	+500円																										
こども用（朝・夕食）	1,000円	1,250円	+250円																										
昼食	600円	750円	+150円																										
区分	変更前	変更後	増額																										
大人	3,650円	4,150円	+500円																										
こども	1,750円	2,000円	+250円																										